



くらしといのちを
つなぐ翔橋

藤前干潟



♪生物多様性からのぞいてみよう♪

Welcome to the Fujimae tideland

きてみや〜藤前干潟へ

- 春^{いっせい}が来れば、渡り鳥が一斉に旅立ち
- 夏が来れば、生き物や子供たちの声が干潟にあふれ
- 秋が来れば、渡り鳥が羽を休めにやってきて
- 冬が来れば、月明かりの下で干潟の生き物がいのちを養う

四季が移り変わっても

変わる事のない干潟^{はぐく}が育むいのち

都市の中に残された生物多様性^{たようせい}の宝庫

いつまでも残さなくてはいけないかけがえのない自然

それが**藤前干潟**

コラム Column

ひがた 干潟ってどんなところ？

干潟とは、川から運ばれた土砂^{たいせき}が堆積してできる砂泥地^{しお}で、潮の満ち引きによって、現れたり水没したりします。干潟は約6時間周期で満潮^{まんちょう}と干潮^{かんちょう}を繰り返しています。



まんちょう
満潮時



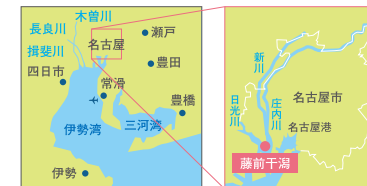
かんちょう
干潮時



藤前干潟のあらまし

地球の変化といのちの多様性が
身近に実感できるという魅力。

藤前干潟は伊勢湾最奥部に位置し、愛知県西部の庄内川、新川、日光川の3河川が合流する河口部に位置しています。潮が最も引いた時には、238haという広大な干潟が現れます。



藤前干潟で1日過ごせば、潮の満ち引きとともにダイナミックに変化する多様な生き物たちとその活発な営みが見え、藤前干潟のいのちはそれぞれがつながっていることを実感できます。藤前干潟は、過去に埋立の危機にさらされました。しかし、生き物にとって重要な場所であるとの認識から、市民、行政などの努力により保全されました。国指定鳥獣保護区やラムサール条約湿地に指定して保護され、今も生き物の多様性を育む大切な場所としてのはたらきを維持しています。

※鳥獣保護区やラムサール条約湿地については、17、18ページ参照



生物多様性を生む
干潟の変化のイメージ図

もくじ

Contents

- P 1 ■ さてみや～藤前干潟へ
- P 3 ■ もくじ
- P 4 ■ 藤前干潟のあらまし
- P 5 ■ 藤前干潟に飛来する鳥類
- P 7 ■ 藤前干潟に生息する底生生物
- P 9 ■ 藤前干潟－生き物をつなぐー
- P 11 ■ シギ・チドリ類の渡りのルート
- P 12 ■ 干潟のはたらき
- P 13 ■ 生物多様性と藤前干潟
- P 15 ■ 埋立の危機にさらされた藤前干潟
- P 17 ■ 藤前干潟はどのように守られている？
- P 19 ■ 藤前干潟が抱える問題
- P 20 ■ 藤前干潟のためにあなたにできること
- P 21 ■ 遊びに来てね☆藤前干潟
- P 22 ■ 参考文献

藤前干潟に飛来する鳥類

春秋

たびどり
旅鳥

春は、南からたくさんの渡り鳥たちが、渡りの途中で羽を休めたりエネルギーを補給するために立ち寄り、子育てをするため北極圏などに向かって、再び旅立っていきます。秋は、その逆に越冬するために、遠くはオーストラリア、ニュージーランドなどの南に渡ります。



ダイゼン 全長:29cm

ゴカイをよく食べています。チドリの仲間で、「歩く」「止まる」を繰り返しながらエサを探します。



トウネン 全長:15cm

春の渡りでは綺麗な夏羽をしています。シギの仲間、下を向きながら歩き回りエサを探します。



ダイシャクシギ 全長:58cm

大きく下に曲がった嘴を使って、巣穴にいるカニを上手に引っ張り出し、カニの足を振り落としてから食べます。少数ですが越冬するものもいます。

※稲永公園はオオルリ、キビタキなどの森林性の鳥たちも渡りのルートとして利用しています。

冬

ふゆどり
冬鳥

冬を過ごすため北方から渡ってきて、春には再び北方に渡り、子育てをする渡り鳥がやってきます。カモ類、カモメ類、カイツブリ類などが主に見られます。ハマシギ、ダイゼン、ダイシャクシギには、冬も藤前干潟に留まるものがいます。



スズガモ 全長:45cm

もぐって貝類・甲殻類・海藻類などを食べます。春には、北に戻るために集結する大きな群れが見られます。



ズグロカモメ 全長:32cm

干潟に急降下し、カニなどを捕まえて食べます。世界的に数の少ない鳥です。



ハマシギ 全長:21cm

越冬数の急激な減少が危惧されます。飛ぶ姿は羽をひるがえす度にキラキラ輝くように見えます。



夏

なつどり
夏鳥

藤前干潟周辺では、ヨシ原、田園、砂利地などで、鳥たちが子育てをしています。エサを捕る場所としても、藤前干潟はとても重要な役割を果たしています。ダイゼン、スズガモは、夏も藤前干潟に留まるものがいます。



コアジサシ 全長:24cm

砂利地で子育てをしますが、近年繁殖場所が少なくなっています。ダイビングをして魚を捕ります。



ササゴイ 全長:85cm

岩場をスタスタ歩いて、魚などを捕まえて食べます。子育ては樹上で行います。



チュウサギ 全長:68cm

藤前干潟周辺の田園でよく見かけます。夕方には、群れでねぐらへ帰ります。

年中

りゅうちょう
留鳥

藤前干潟周辺で子育てをして、一年中見られる鳥たちです。稲永公園の松林でも子育てをしている鳥が見られます。一年中見られる種でも、季節によって個体数が変化するものもあります。



ミサゴ 全長:57cm

水中にダイビングをしてボラやスズキなどを捕まえて食べるタカです。秋に個体数が一番多くなります。



カワウ 全長:81cm

集団で魚を追いつまむ姿は圧巻です。よく羽を広げて乾かしています。夕方になるとねぐらに帰ります。



アオサギ 全長:93cm

日本で一番大きなサギ。するどい嘴で魚を刺して捕ることもあります。ミサゴのとった魚を横からねらったりします。

★ 環境省、愛知県、名古屋市のいずれかのレッドデータブック掲載種を示しています。

藤前干潟に生息する底生生物

魚類

海、川、海と川を行き来する魚類が見られます。干潟は水深が浅く、大きな魚などの捕食者が来ることができないため、稚魚や稚貝の生育場所としても、とても重要です。



ウナギ 全長:100cm

みお筋に沈めてある土管や、潮だまりで石をどけると、出会うことがあります。



ボラ 全長:60cm

よく水面をはねます。ミサゴなどの魚を食べる鳥の重要なエサになっています。



トビハゼ 全長:10cm

魚ですが水中にずっといると溺れてしまいます。冬は巣穴を掘って冬眠します。

貝類

泥砂に穴を掘ったり、岩などの上に多くの貝類が生息しています。全国的に干潟が減少しているため、今では希少な貝類が何種類も生息しています。鳥の食糧になるほか水質浄化の面でも、重要な役割を果たしています。



ヤマトシジミ 殻長:3~5cm

干潟を代表する二枚貝。水質浄化や鳥のエサとして、とても重要です。



ソトオリガイ 殻長:5.2cm

から殻は他の二枚貝に比べ柔らかい。地元では「コマテ」と呼び、昔は食べていたそうです。

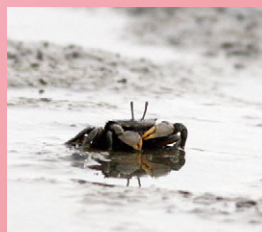


カワザンショウガイ 殻高:1cm

小さいですが、これで大人の貝。この貝の仲間は潮間帯によってすみわけをしています。

甲殻類 (カニ・エビなど)

同じ干潟でも、場所によって砂粒の大きさが異なります。砂粒の大きさに合わせて、「すみわけ」をするため、生息するカニの種類が異なります。潮だまりでは、岩をど見ることができます。また、じっと干潟や水面をみていると、多くの生きものたちを



ヤマトオサガニ 甲幅:0.5cm

夏には干潟一面に見られます。オスはハサミを振り上げて、メスを誘います。



シロスジフジツボ 殻径:2cm

水につかると、硬い殻からツルのような脚を出し、水中にたようプランクトンを食べます。



アナジャコ 体長:9cm

干潟に2mを超える深い巣穴を掘ります。巣の入り口はY字になっています。水中の有機物をこしとって食べます。



ユビナガホンヤドカリ 甲長:1.5cm

潮だまりでよく見かけます。さまざまな貝類の甲羅を利用して生活しています。

その他

その他にも、ケイソウなどのプランクトン、ゴカイ、イソギンチャク、ヨコエビなど、さまざまな生き物たちが生息しています。



ゴカイの仲間 体長:12cm

干潟を掘ったり、岩の下などに生息します。波り鳥たちの貴重な栄養源となります。



タテジマイソギンチャク 体幹直径:0.5~1.5cm

水中では触手を出して、プランクトンなどを食べます。

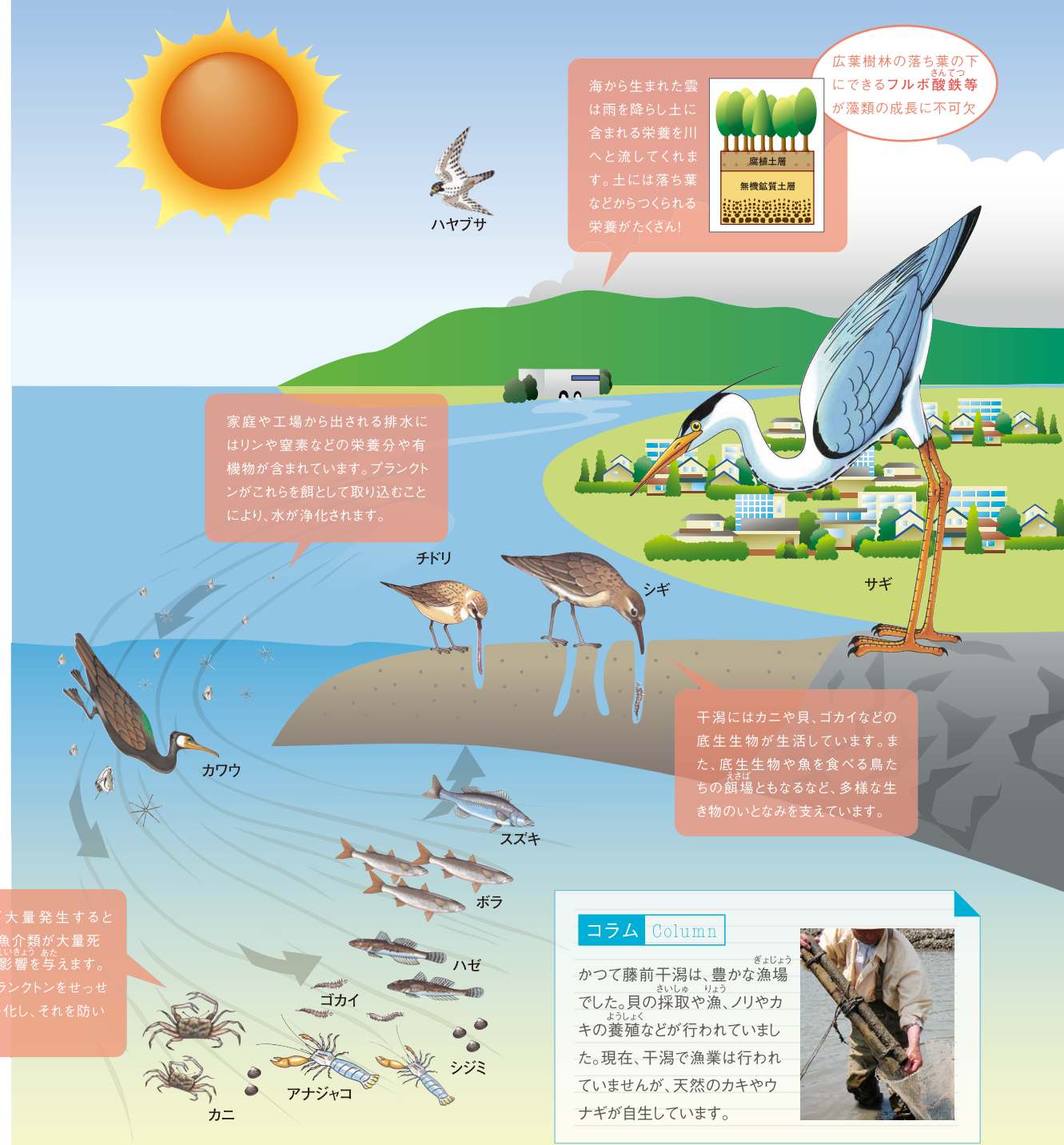
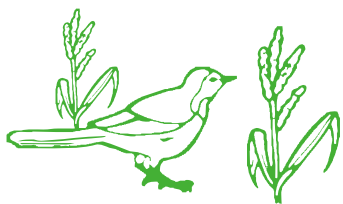
藤前干潟

一生き物をつなぐ一

藤前干潟の生き物は、それぞれに個性を持っています。
それらは森から海まで、食う食われる、栄養を運ぶといった
様々な関係でつながりあっています。

 干潟の食物連鎖を知ろう

ある生きものが別の生き物を食べ、また他の生き物に食べられる。このつながりを「食物連鎖」といいます。川は、海へ砂や泥を運び、この砂や泥が河口などにたまって干潟ができます。家庭や工場から川や海に排出された排水には、リンや窒素などの栄養分や有機物が含まれています。栄養分や有機物が増えすぎると水は汚れてきますが、プランクトン（水中にただよっている生き物で、非常に小さなものが多い）がそれらを餌として取り込み、水をきれいにします。干潟や浅瀬ではカニやゴカイなどの底生生物や魚介類が、プランクトンを食べて育ち、底生生物や魚介類は鳥の餌となります。干潟は生き物の命を育み、食物連鎖等を通じて海水を浄化させ、きれいな海をつくるのに重要な役割を果たしています。



プランクトンが大量発生すると「赤潮」となり、魚介類が大量死するなど大きな影響を与えます。底生生物はプランクトンをせっせと食べて水を浄化し、それを防いでいます。

コラム Column

かつて藤前干潟は、豊かな漁場でした。貝の採取や漁、ノリやカキの養殖などが行われていました。現在、干潟で漁業は行われていませんが、天然のカキやウナギが自生しています。



Migration route

シギ・チドリ類の 渡りのルート

藤前干潟はシギ・チドリ類の東アジア-オーストラリア渡りルート上にあります。繁殖地のアラスカと、越冬地のオーストラリアの距離は約1万2千km。藤前干潟は、この長い距離を移動する渡り鳥が羽を休めたり、エネルギーを補給する上で、重要な中継地となっています。



渡り鳥にとっては、ただ大きな干潟がいくつか残っていればいいというだけでなく、渡りのコース上に、一定の距離で存在することが大切です。渡り鳥の保全のためには、繁殖地・中継地・越冬地等の健全な生息環境が必要であり、多くの国々の協力が欠かせません。その一つの取り組みとして関係する国や国際機関、NGO等が連携してフライウェイパートナーシップをつくり生息地の保全等を行っています。



Function of the tideland

干潟のはたらき

干潟はシギ・チドリ類の中継地としてだけでなく、大きく分けて5つの重要な役割を果たしています。

1. 生き物が生息する

- ・生物の生育
- ・食物連鎖
- ・生息種の保存・多様性



さまざまな種類の生き物が育つことができるんだね!

2. 物質を循環させる

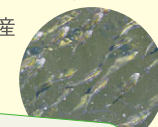
- ・食物連鎖
- ・水質浄化



生き物が食べたり食べられたり、生き物同士がつながっているよ。

3. 生き物を生産する

- ・産卵・稚仔の生育
- ・漁業生産



卵を産んだり、生き物が子どもの頃育つために大切な場所なんだね!

4. 水に親しむ

- ・レクリエーション
- ・自然体験・環境教育

しおりが潮干狩りをしたり、遊んだり、生き物について勉強もできるよ!



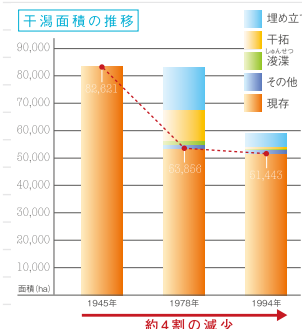
5. 景観を作る

- ・自然景観
- ・自然海岸・自然水際線



散歩したり、音や景色に癒されたりするね!

干潟面積の推移



※第2回・第4回自然環境保全基礎調査(1980・1994)より作成

コラム Column

日本の干潟がなくなっている!?

日本では、高度経済成長期には、都市化や産業の発達にともなって、干潟の埋立が急速に進められました。埋立・干拓などによって、1945年以降で約4割の干潟が消滅しました。最近では、埋め立てられる面積は減ってきていますが、残された干潟やその近くでは、依然として埋立が行われています。

「新・生物多様性国家戦略 いのちが創れない」より

生物多様性と藤前干潟

藤前干潟には、多様な環境と生き物のつながりがあり、
私たちが藤前干潟を構成する生態系の一部なのです。

環境の多様性

山、川、干潟、海など、いろいろなタイプの
自然があり、それらがつながっていることで
より複雑な生態系が作られています。

藤前干潟は3つの河川の河口部に形成されて
います。その河川から土砂や有機物の流入や
潮によって大きく変化する多様な環境、また干
潟の周辺にも森や川などの「環境の多様性」が
あることで、さまざまな生き物が干潟に生息で
き、その生き物同士がつながることでいのちを
支えています。このように干潟やその周辺に
様々な環境条件があることが藤前干潟の貴重
な生態系を形成しています。

環境や生き物の多様性の恩恵

環境の多様性や生き物の多様性から得られたもので
私たちが人間は生きています。

私たち人間もさまざまな恩恵をおんけい藤前干潟とその生物多様性から得ています。干
潟の生き物が河川からの有機物を食べることで水質浄化がされたり、生き物の
つながりから伊勢湾で魚が獲れ、私たちの食卓に並びます。また、干潟に集まる
鳥を見て多くの人が楽しめます。

生き物の多様性

変化に富んだ自然環境の中に、鳥などから微生物に至るまで、
いろいろな種類の生きものがいることです。

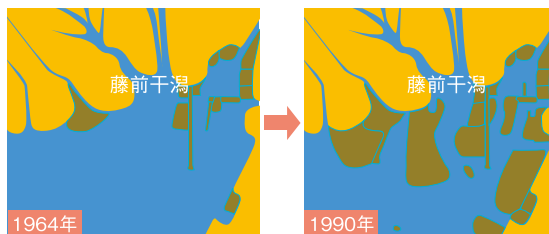
藤前干潟には河川からの栄養や太陽エネル
ギーにより底生生物がたくさんいて、それをエサ
に多くの渡り鳥が立ち寄り、長い旅で疲れた体
を休め、エネルギーを補給します。このように藤
前干潟では多様な生き物が互いにつながって
いるのが見られます。



埋立の危機にさらされた 藤前干潟

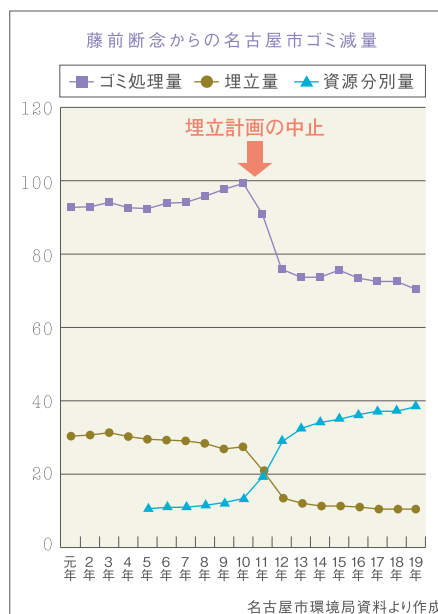
1960年代～ 最後に残された干潟～藤前～

藤前干潟のある伊勢湾最奥部にはかつて広大な干潟がひろがっていました。しかし、^{こうわんしせつ}港湾施設や工場、農地などの開発で次々と埋め立てられ、干潟は失われてしまいました。最後にわずかに残ったのが藤前干潟なのです。



1980年代～ 名古屋市のごみをどうする？ ～藤前干潟埋立計画～

名古屋市では、経済発展による大量生産、大量消費の生活スタイルを背景として、1980年代にごみの排出量が大きく増加しました。名古屋市から排出されるごみを処理していた岐阜県多治見市の愛岐処分場は2001年にも一杯になる見込みでした。このため、名古屋市では、市内がごみであふれないよう、藤前干潟を処分場として埋め立てる計画を進めていました。



1990年代～ 藤前干潟の保全に向けた動きの展開

埋立計画に対して、市民団体や研究者が干潟の重要性を発信するなど、反対運動を展開しました。また、環境庁(当時)も、藤前干潟が保全されるように働きかけを進めました。



1999年～ 埋立計画の中止

干潟保全の動きをうけて、名古屋市は1999年1月に埋立計画を断念し、翌2月に「^{てってい}ごみ非常事態」を宣言しました。これ以降、名古屋市では市民・事業者・行政が一体となって徹底したごみの分別・リサイクルに取り組みました。その結果、2年間で23%のごみ減量に成功しました。

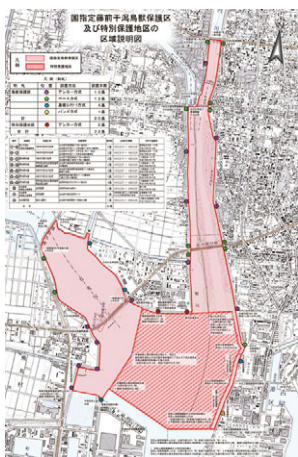
藤前干潟の危機から学ぶこと

埋立計画の中止により、干潟とつながっているすべての生き物も守られました。「鳥が大事か人の生活が大事か」という二者択一ではありません。生き物の^{めぐ}恵みを受けなければ存在できない人間社会、これを持続させるためには、さまざまな環境につながっているさまざまな生き物がいること—生物多様性—が必要なのです。生物多様性を保全するためには、ごみを減らして循環型の社会にするなど、人間社会のしくみを変えていく必要があります。

藤前干潟はどのように 守られている？

環境省の取り組み

1 国指定鳥獣保護区



鳥獣保護区の位置図

藤前干潟は国により鳥獣保護区に指定されています。保護区内では鳥獣の捕獲は禁止されています。さらに、特別保護地区では水面の埋立や干拓等も禁止です。環境省は、保護区内の巡視、鳥獣の生息状況の調査等を行う鳥獣保護区管理員を設置し、保護区の適切な管理に努めています。



2 ラムサール条約登録湿地



2万羽スズガモの群れ(3月)

2002年11月藤前干潟は国際的に重要な湿地としてラムサール条約湿地に登録されました。登録の理由は、
① 国際的に絶滅のおそれのある種又は生態学的群集の生存にとって重要だと考えられること。
② 2万羽を超える水鳥を定期的に支えていること、などです。

3 ビジターセンターなどでの普及啓発



稲永ビジターセンター



藤前活動センター

2005年3月に稲永ビジターセンター及び藤前活動センターを自然とのふれあい拠点施設として設置し、環境学習等の普及啓発を行っています。職員による講座や自然観察会などのイベントも行っています。



藤前干潟で遊ぶ(8月)

様々な人たちが協同行う活動

ふれあいデー



オープニングの様子

藤前干潟がラムサール条約湿地に登録された11月18日を記念して行うイベントです。当日は関係団体による各種展示の他、音楽ライブや大道芸なども行われとてもにぎわいます。

クリーン大作戦



ゴミ拾い中の様子

年間2回程度藤前干潟に関わる団体や個人が協力し清掃活動をしています。お昼ごはんの炊き出しも行われおいしく楽しく実施しています。

藤前干潟協議会



協議会の様子

藤前干潟に関わる市民、行政、研究者が集まり、藤前干潟の運営等について話し合いを行います。時には白熱した議論も行われます。

NPOの取り組み



干潟を調査している様子

藤前干潟に関わるNPO等の様々な団体が干潟の生物調査や観察会を活発に行っています。藤前干潟の上流で活動している団体も連携して活動が行われています。

藤前干潟が抱える問題

藤前干潟は河口域にあるので、上流や海からの影響を強く受けます。



藤前干潟のために あなたにできること

チェック!!

まずは、身近なことから始めよう。

✓ 藤前干潟に行ってみよう！

藤前干潟には稲永ビジターセンターや藤前活動センター、名古屋市の野鳥観察館などの施設があり、楽しく藤前干潟を知ることが出来ます。『ふれあいデー』や『クリーン大作戦』などのイベントも開催しています。まずは藤前干潟にきて魅力を体感しよう!! スタッフもお待ちしております。



クリーン大作戦

✓ 自分の生活を見直してみよう！

藤前干潟は上流からの影響を強く受けます。汚い水を流すと藤前干潟は汚れてしまいます。

■ 魚が棲める水にするには、こんなに水が必要です！

米のとぎ汁 (2ℓ)	きれいにするには	よくそう	浴槽 1.2 杯
みそ汁 (碗 1 杯)	きれいにするには	わん	浴槽 4.1 杯
ビール (200ml)	きれいにするには		浴槽 12 杯

■ 家庭でできる生活排水対策

- ☐ 調理くずや食べ物の残りを水と一緒に流さない
- ☐ 食事を作りすぎない
- ☐ 洗濯洗剤は正しく使って使う、などなど



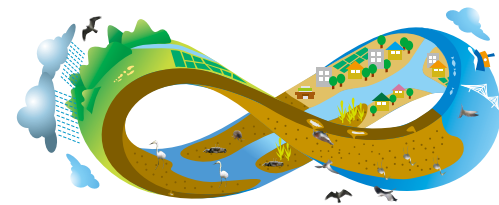
ゴミの対策など取り組めることは他にもあるよ! 詳しくは→<http://www.biodic.go.jp/biodiversity/>

もっと深く知りたくなったら。

✓ 上流域の森に出かけてみよう！

藤前干潟の豊かな生態系は森から流れ出る1滴の水からはじまります。川から流れ込む養分などを元に、藤前干潟の生態系が成り立っているのです。つまり、干潟に流れ込む川の上流の保全も大切なことなのです。

市民と研究者が協働して「海の健康診断」・「川の健康診断」・「森の健康診断」などが行われています。これらの活動は、生物多様性を保全することにつながります。皆さんも生物多様性の重要性を実感してみませんか？



土岐川・庄内川源流森の健康診断

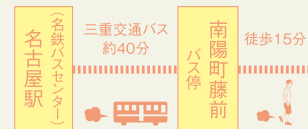
遊びに来てね☆藤前干潟

Access Map



藤前活動センター

〒455-0855 名古屋市港区藤前2-202
TEL:052-309-7260 FAX:052-309-7261



稲永ビジターセンター

〒455-0845 名古屋市港区野跡4-11-2
TEL:052-389-5821 FAX:052-389-5822



藤前干潟に関する情報がたくさん!!

詳しくはこちら!!



環境省HP

藤前干潟について

http://chubu.env.go.jp/wildlife/mat/m_1_1_1.html

藤前干潟の楽しい情報を日記にしています!「アクティブレンジャー日記」

<http://chubu.env.go.jp/blog/>

出前講座について

http://chubu.env.go.jp/wildlife/mat/m_1_1_6.html



名古屋市HP

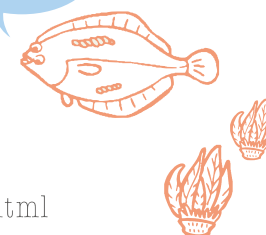
<http://www.kankyo-net.city.nagoya.jp/fujimae/>



藤前干潟を守る会HP

<http://www.fujimae.org/>

観察会も
やってるよ!



参考文献

- ・藤前干潟を守る会. 2002:名古屋市港区藤前干潟, マック出版
- ・叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998:山溪ハンディ図鑑7日本の野鳥, 山と溪谷社
- ・川那部浩哉・水野信彦・細谷和海. 1989:山溪カラー名鑑日本の淡水魚改訂版, 山と溪谷社
- ・小林安雅. 2000:ヤマケイポケットガイド16海辺の生き物, 山と溪谷社
- ・増田修・内山りゅう. 2004:ピーシーズ生態写真図鑑シリーズ2日本産淡水貝類図鑑2汽水域を含む全国の淡水貝類, ピーシーズ
- ・松原武久. 2001:一周遅れのトップランナー 名古屋市民のごみ革命, KTC中央出版
- ・松浦さと子編. 1999:そして、干潟は残ったインターネットとNPO, リベルタ出版
- ・奥谷喬司. 1994:山溪フィールドブックス8海辺の生きもの, 山と溪谷社
- ・財団法人日本自然保護協会. 2007:干潟の図鑑, ボプラ社
- ・2008:干潟生態系に関する技術ガイド
http://www.env.go.jp/policy/assess/7-2guideline/h19_higata/h19_higata.html, 環境省

平成21年3月 印刷

編集・発行:環境省 中部地方環境事務所

〒460-0001 名古屋市中区三の丸2-5-2 TEL:052-955-2139 FAX:052-951-8889

このパンフレットに関する
お問い合わせ

名古屋自然保護官事務所

〒455-0845 名古屋市港区野跡4-11-2 稲永ビジターセンター内
TEL:052-389-2877 FAX:052-389-2878

※このパンフレットは古紙パルプ配合率100%、白色度80%の再生紙を使用しております。

